



未来創造科（3年生）における実践事例

教育学部附属義務教育学校前期課程 教諭 関野 淳也

本校の未来創造科のテーマ「住みたいまちプロジェクト～ふるさとの明日を創ろう～」のもと、3年生の未来創造科では、「松江といえば」をテーマに、松江の様々なひと・もの・ことに目を向ける学習に取り組んでいます。

今年度の前半にスポットを当てたのは「和菓子とお茶」。まずは季節の和菓子とお茶を一人一人が味わうことから始めました。和菓子を目の前にして、色・形・材料・においなどを目や鼻で味わったり、実際に食べて口で味わったりすることを通して、子どもたちは様々な気づきや疑問を見つけっていました。

気づきや疑問について、子どもたちなりに調べてみようと思いますが、「どうしてこんなに細かい模様が作れるんだろう」「うしろの中に白あんをどうやって入れているのかな」など、調べるだけではわからない疑問がたくさん。そこで、和菓子職人さんに直接教えてもらうことにしました。当日は作っているところを見せてもらったり、和菓子作り体験をさせてもらったりしながら、和菓子とお茶が松江の文化として大切にされてきたこと、職人として大切にしていることなど、生の声でたくさんのことを学んだ子どもたちでした。

和菓子とお茶について学んだことをリーフレットにまとめた子どもたち。後半は「松江城」をテーマに、自分で直接見たり、人から話を聞いたりしながら、さらに松江の様々なひと・もの・ことと出会っていってくれたらと考えています。

